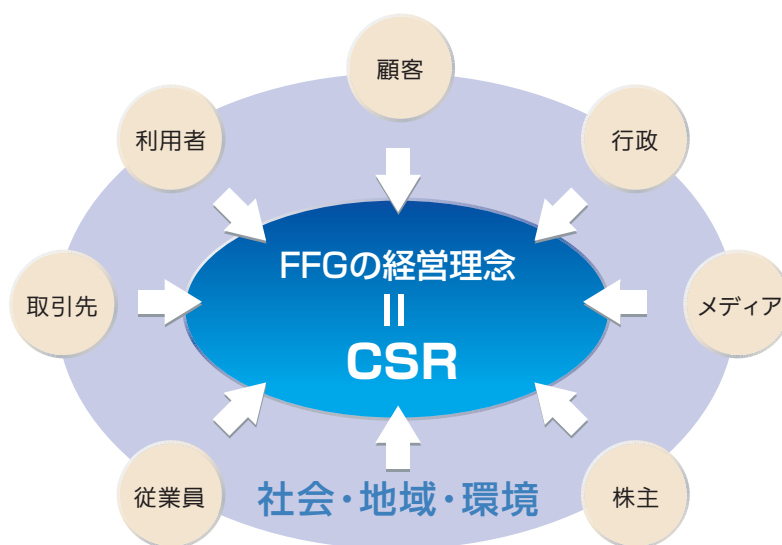


ふくおかフィナンシャルグループは、『CSR』を「ステークホルダー（利害関係者：お客さま・株主さま・従業員）とのよりよい関係を構築することにより、企業および社会の持続的成長を実現すること」と考え、法令遵守・リスク管理態勢の強化といった企業経営に関する取り組みはもとより、ステークホルダーに対する様々な取り組みを行ってまいります。

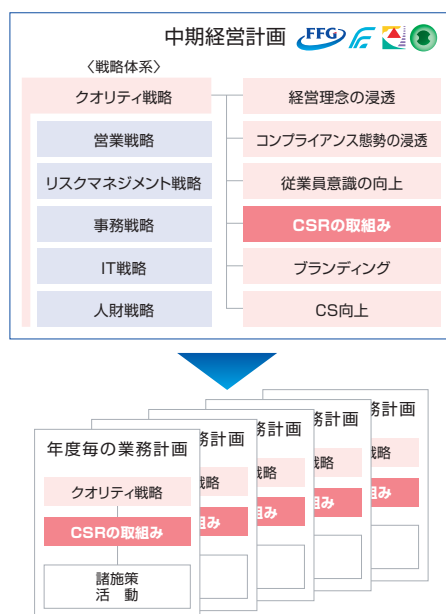
また、当社グループは、グループ経営理念の実践とも言うべき事業活動そのものが『CSR』であると考え、地域金融機関に期待される地域社会の信用を維持すると共に金融の円滑を図り、地域経済の健全な発展に貢献する『社会の公器』（公共の機関）としての社会的責任はもとより、地域金融グループとしての役割・特性を活かして持続可能な社会を実現するため、最も貢献できる分野において、様々な変革と価値創造に寄与する活動を展開していきます。

FFGにおけるCSRの定義

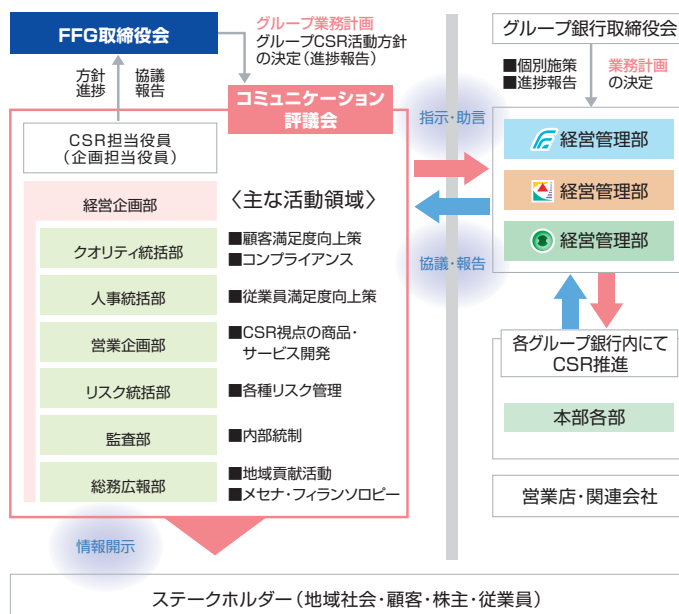
CSRとは、全てのステークホルダーがFFGに抱く経済的、法的・倫理的、若しくは心情的な期待に対して、バランスのとれた意思決定を行い、様々な価値を提供することで、ステークホルダーの持続可能な成長を促進し、もってFFGの持続的な発展を実現していくこと。



■CSRと経営戦略の融合



■FFGのCSR経営/推進体制



FFGで取組むCSR活動は、その時々、社会的課題や要請に対し、受動的に應えるのではなく、持続可能な活動として自発的かつ継続的に実施していくことが基本となります。

この活動の基本軸として、FFGでは、『3つの活動層(Active Layer)』を設定します。これは、実際の活動を行う従業員一人ひとりが、より明確なビジョンと発意を持ち、具体的に厚み(層)のある取組みができるように、FFG自らが後ろ盾となってFFGの広域展開型地域金融グループとしての役割・特性を活かしながら最も貢献できる分野にフォーカスするものです。

この3つの活動領域と3つの活動層の組み合わせを最適化することにより、FFGとその従業員は、経営資源を効果的に活用して、良き企業市民・良き企業人としての責務を果たすとともに、社会の変革と新たな価値創造に資する志をもって、様々な事業活動を展開していきます。

■3つの活動層(Activity Layer)

活動層Ⅰ 環境共生活動

地球に負の影響を及ぼす環境問題は、FFGが共生を図っていく『地域』にとっても看過できない重要課題です。FFGは、自らの環境負荷の抑制・軽減に努めるとともに、『金融』が持つ役割・機能を介して、環境保全に資する商品・サービスを積極的にステークホルダーへ提供していきます。

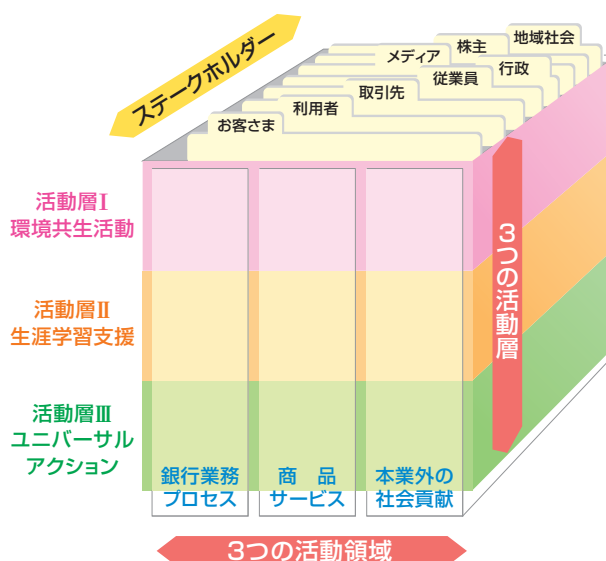
活動層Ⅱ 生涯学習支援

次世代を担う子供の豊かな感受性、人間性の形成は勿論のこと、すべての人々のライフサイクルに応じた様々なシーンで、金融知識の普及を通じた生涯学習を支援していきます。また、企業市民としての『法人』を対象とした各種啓蒙活動にも取組みます。

活動層Ⅲ ユニバーサルアクション

店舗チャネルなどのハード面や、商品・サービスなどのソフト面、従業員一人ひとりの対応といったヒューマン面において、高齢者、障がい者、子供、女性などに特定しない『みんなに優しい』をキーワードにした、デザイン、機能、サービスを充実させる活動を展開します。

■3つの活動領域と3つの活動層の組み合わせ(CSR CUBE)



3つの活動領域と3つの活動層の最適な組み合わせ＝バランスのとれたCSR経営を展開することで、社会の変革と新たな価値創造に挑戦していきます。

■3つの活動領域(Activity Area)

1. 銀行業務プロセスにおけるCSR

コーポレートガバナンス、法令遵守、各種リスク管理、情報開示といった企業経営の根幹となる態勢構築・整備をはじめ、従業員の雇用や自らの環境負荷軽減活動等といった、銀行業務の全プロセスに係る取組み

2. 銀行の商品・サービスによるCSR

銀行のもつ金融機能を活用して、社会的に意義ある商品・サービスを開発・提供する取組み／金融ビジネス

3. 本業外の社会貢献によるCSR

本業とは直接的な関係は薄いですが、経営資源を活用して、社会的課題に関与する取組み(ボランティア、芸術文化活動等含む)

熊本ファミリー銀行の環境問題への取組み

熊本ファミリー銀行は平成16年8月に「エコ宣言」を行い、さまざまな環境問題への取組みを行っています。平成17年9月には環境マネジメントシステムの国際規格であるISO14001の認証を取得しました。

熊本ファミリー銀行環境方針

熊本ファミリー銀行は、すべてのステークホルダーに対し、「いちばん身近な、いちばん頼れる、いちばん先を行く」銀行であることを目指しております。

豊かな自然環境に恵まれた熊本県を主たる経営地盤とする当行は、環境問題への取組みを企業の社会的責任の大きな柱として位置付け、この面からも、「いちばん身近な、いちばん頼れる、いちばん先を行く」銀行であるべく、継続的に環境問題に取組んでまいります。

1. 環境保全に関連する法規制を遵守するほか、当行が賛同するその他の要求事項についても積極的に対応します。
2. 環境保全のための目的・目標を設定し、必要な見直しを行いながらその達成を目指すなど、環境マネジメントシステムの継続的な改善を図ります。
3. 省資源・省エネルギーへの取組み、グリーン購入などの環境配慮型商品の購入等、環境保全に配慮した活動の実践により、環境への負荷低減と汚染の予防に努めます。
4. 環境保全に資する金融商品・サービス・情報の提供等、本業を通じた環境活動の側面からも地域貢献に取組んでまいります。
5. 本方針を全従業員に周知徹底し、一人ひとりが環境問題について考え、行動するようにします。

この環境方針を内外に公表します。

平成19年9月18日

株式会社 熊本ファミリー銀行
取締役頭取 鈴木 元



環境目的目標と進捗状況

環境目的	環境目標	実績	進捗状況
本業による環境保全活動	環境配慮型預金商品残高500億円達成	第4回ふるさと環境応援定期残高356億円	ふるさと環境応援定期の3月末実績に応じて、環境保全団体に寄付金贈呈 第1回(平成17年5月)390万円/第2回(平成18年5月)900万円/第3回(平成19年5月)1,000万円/第4回(平成20年6月)711万円
	環境配慮型貸出商品残高330億円達成	環境配慮型貸出商品残高337億円	・環境にやさしい住宅、自動車の購入や介護商品の購入に優遇金利で融資 ・環境問題に取組まれている方に優遇金利で融資
	環境配慮型投資信託販売累計額年間20百万円達成	環境配慮型投資信託販売累計額年間22百万円	投資対象を「社会的に責任ある企業活動を積極的に行っている企業」に限定した投資信託を販売
	情報サービス ISO認証取得支援サービス (ISO14001)年間2件獲得	情報サービス ISO認証取得支援サービス (ISO14001)1件提供	ISO等マネジメントシステムの認証取得を希望するお取引先に対し、提携コンサルティング会社を紹介し、認証取得を支援
時間管理による消費エネルギー削減	オペレーション繰上げ時刻平均16時の達成 (平成20年1月目標変更 16時13分)	オペレーション繰上げ時刻平均16時13分	
消費電力の削減	2004年度と比較して6%削減	2004年度電力使用量 1,562KWH 2007年度電力使用量 1,571KWH	0.5%増加 ・待機電力の削減 ・クーリビズ、ウォームビズの実施
紙の使用量削減	2004年度と比較して6%削減	2004年度紙使用量 26,808kg 2007年度紙使用量 28,312kg	5.6%増加 ・電子化による紙使用削減 ・資料の簡素化
ごみのリサイクル率向上	2004年度と比較して15%向上	2004年度リサイクル率 24.9% 2007年度リサイクル率 39.5%	14.7%向上 ・ゴミ分別の徹底 ・使い捨て商品の購入抑制
地域の環境保全活動の「小さな親切」運動への推薦	熊本県内店舗各店1件推薦 (県内店舗68店舗)	熊本県内68店舗187件推薦	環境保全に関わる「小さな親切」を「小さな親切」実行章に推薦する。
地域の環境保全活動への参加促進	本部各店と全営業店は環境保全活動に各都店半期に1回以上参加	本部、全営業店が環境保全活動に参加	・各営業店での地域の清掃活動への参加 ・熊本市内一斉清掃活動の実施(19年6月江津湖/20年3月熊本城)

その他CSRへの取組みの一例

環境共生活動

環境負荷の抑制・軽減



クールビズに引き続き、グループ3行でウォームビズを実施しています。また環境美化も進めており、定期的に清掃活動も行っています。

生涯学習支援

職場体験プログラムを実施



福岡銀行およびふくおかフィナンシャルグループは、職場体験プログラム「Job Shadow」を実施し、福岡市立福岡高等学校の生徒41名が参加しました。

ユニバーサルアクション

「みんなにやさしい」を展開中



「あなたのいちばんに。」のブランドスローガンのもと、私たち一人ひとりがお客さまに最高水準のサービスを提供する取組みを行っています。